



2018.7
第64号



一般社団法人
大学女性協会
東京支部会報

- TOMOSHIBI -
Journal of Tokyo Chapter
Japanese Association of
University Women
<http://www.jauw.org>

二度目の支部長

支部長 森川 淳子

この度中山正子前支部長の後を引き継いで、支部長をお受けいたしました。再登板となりました。新たな委員も含めて15人で委員会を運営してまいります。皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第7回定時会員総会では、鷺見会長から、国内奨学生の最近の活躍についてのご紹介、委員会の再編成が行われたこと、10月には「教育・ジェンダー・共生」のテーマでシンポジウムが行われること、来年度の総会は5月21・23日に京都で開かれること、GWIは来年100周年を迎え、ジュネーブで総会が開かれること、などの話がありました。支部長会で問題になったのは、どの支部も会員の減少と高齢化に伴い活動資金が少なくなり、支部で出来る事業も限られてくることなどが話題に上っていました。歴史時代小説家の植松三十里氏による講演会があり、また研修旅行は天候に恵まれ、楽しい一日でした。新たな理事会が発足し、鷺見会長体制の二期目が動き出しました。総会では他支部の方との交流もあり、多くの会員の方々にぜひ参加していただけたらと思います。

3年前に発行した『あの頃わたしは』の冊子は、会員のご努力により、大英

図書館へ納めることができました。素晴らしいことです。ともしび63号の特集「ここまで進んだ！男女平等、まだまだあるある！男女差別」も大変好評でした。次回は「私の辞書に『今更』はない！」を予定しております。ご投稿をお待ちしております。5月には「原発ゼロ・自然エネルギー推進について」の勉強会を開き、原発事故の怖さ、太陽光エネルギーと農業との共生により日本の抱えている様々な問題の解決にもつながるのではないかと、とお話がありました。昨年度ホームズ奨学生が社会福祉奨学生から選ばれたこともあり、9月に社会福祉委員会と共催の講演会を、また11月には恒例になりました会員によるフラワールンジメントの講習会を開きます。

今後の計画、詳細は後日ご案内いたします。さらに皆様に喜んでいただける企画を計画してまいります。



『ともしび』から ヒントを得て

大学女性協会 会長 鷺見 八重子



薫風かおる5月13日、静岡総会において新しい理事・監事が選任され、不肖鷺見が引き続き二期目の会長を務めることになりました。東京支部の監事お二人、そして森川東京支部長はじめ14名の理事の方々と一緒に、たのしく事業を進めていきたいと願っています。

さて、そこで、本部事業の企画・運営に参考になるのが東京支部の活動です。とりわけ「ともしび」から学ぶことが多くあります。最近号の特集「ここまで進んだ！男女平等、まだまだあるある！男女差別」では、投稿者の多様な視点から現代の問題がクリアに浮かびあがり、編集の妙に目を見張りました。また、松井久子監督の映画鑑賞会、あるいは講演会や勉強会も、かならず本部のテーマに寄り添って企画されていて、その心配りにいつも感心させられます。

本部も東京支部のセンスの良さに学び、「教育・ジェンダー・共生」のテーマのもと、実りある一年となりますよう、皆さま、今年度もどうぞよろしくご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2018年 東京支部総会

報告：前書記 坂上 栄美子

2018年東京支部総会は、4月7日(土)に、グランドプリンスホテル新高輪「イルレオナー」で開催された。出席者42名、有効委任状60名、計102名、支部規約第10条2項に基づき正会員225名の5分の1の45名以上の出席により、総会成立が確認され、開会された。配布資料は、総会次第、事業報告、事業計画、正味財産増減計算書・予算書、講演会資料とした。

第1部総会は、総会司会を森川副支部長が務めた。最初に中山正子支部長の挨拶があった。規約第11条に基づき議長は支部長が務めることとなった。2017年度事業報告と正味財産増減計算書及び会計監査報告がなされ、いずれも承認された。ついで、2018年度事業計画案と予算案が提案され、いずれも承認された。議場より、「本部会計への繰入金支出」の文言とその金額について、今後検討を期するとの提案があった。次に、2018年度役員及び監査候補の紹介があり満場一致で選任され、新委員が紹介された。代表して森川淳子新支部長から挨拶があった。議事終了により、議長は解任された。

次に、2017年度東京支部チャレンジ奨学生の白川万琴さん(日本女子大学家政学部被服学科4年)のスピーチがあった。彼女の具体的な仕事への夢と、そのための意欲的な勉強姿勢に、一同エールを送った。

第2部懇親会は、河井・鷲崎両委員の司会で始まり、最初に鷲見八重子会長から挨拶を賜わり、本部と事務所を同じくする支部として、本部事業に協力への謝辞と一層の期待の言葉があった。ついで2017年度の新人会員の紹介があった。支部を常に支えてくださる青木怜子さんの乾杯の発声に、一同心を一つにして活動していくことを確認しあった。講師で夫妻をお招きし、また他支部会員ともども、懇親を深めた。

第3部講演会は、大原美術館館長高階秀爾氏を迎え、「日本人の美意識について」と題してご講演いただいた。古来西欧と日本の美術は、多くの独自性と普遍性を内包してきたが、近代になると相互に影響は大きくなり、特に絵画においては、日本は西欧から新しい表現方法を学びつつも、日本独自の美意識に基づくものへと醸成されてきたと、画像を交えてお話しいただいた。グローバル化の進む今、日本を再認識する良い機会にもなった。

新年度は役員の改選により新しい体制で委員も15名となり、予算の制約は厳しいものの、会員に参加してもらえ活動を目指して頑張っていこうと、委員一同気持ちを新たにされた。4年間の任を果たした中山正子支部長への謝辞も、多く聞かれた。



チャレンジ奨学生の白川万琴さん



議事を進める中山支部長(右)



総会司会を務める森川副支部長(左)

東京支部2017年度事業報告

支部事業

- 4月8日 支部総会 於：グランドプリンスホテル新高輪
講演会「司法の中の女性」
講師：林陽子氏
- 5月23日 見学会「ミャンマーを知る一日」大使館訪問
- 5月30日 支部国際奨学金支給
ナウ・サル・ガイ・ムーさん(ミャンマー)
レンリン・パンドン・サプルさん(フィリピン)
- 7月15日 支部チャレンジ奨学生募集
- 7月22日 「ともしび」62号発行
- 9月13日 講演会「平安朝の女性と政治」
講師：東海林亜矢子氏
- 11月15日 松井久子監督映画上映会①「ユキエ」
- 11月27日 フラワーアレンジメント講習会
講師：河井尚子委員
- 1月31日 支部チャレンジ奨学金支給 白川万琴さん
- 2月27日 松井久子監督映画上映会②「レオニー」
- 3月2日 「ともしび」63号発行

本部事業(主な事業・共催・協力)

- 5月14日 第6回定時会員総会
- 6月～9月 国内奨学生東京支部圏 募集・選考・候補者推薦
- 10月20日 見学会「飛鳥山公園散策」

10月26・27日 全国公開セミナー

12月9日 第16回自然科学講演会

1月13日 新春のつどい 本部国際奨学生1名招待

3月3日 国際女性デーによせて 講演会

「めげないわたし」養成講座シリーズⅢ(全3回)

東京支部2018年度事業計画

支部事業

- 4月7日 支部総会 於：グランドプリンスホテル新高輪
講演会「日本人の美意識について」
講師：高階秀爾氏
- 5月18日 勉強会「原発ゼロ・自然エネルギー推進について」
講師：吉原毅氏
- 5月 支部国際奨学金支給
- 7月 支部チャレンジ奨学生募集
- 7月23日 「ともしび」64号発行
- 9月18日 講演会「黄春明が描いた台湾社会と女性たちの研究」
講師：木下佳奈さん(ホームズ・社会福祉奨学生)
社会福祉委員会と共催
フラワーアレンジメント講習会
講師：河井尚子委員
- 11月 支部チャレンジ奨学金支給
- 1月 「ともしび」65号発行
- 3月

◎新たな企画は、随時お知らせします。

東京支部総会・講演

「日本人の美意識について」

— 高階秀爾氏の講演を聞いて — 記: 中村 久瑠美

「美とは何か」と問われると、「はて何であろうか?…」と一瞬戸惑う方も少なくないであろう。しかし「日本人の美意識は?」と問われると、多少のとっかかりが出来てきて、例えば自然の美しさや四季の移ろいなどと結びつけていろいろ思い廻し、何らかの解を導くことも容易に思えてくる。

今回の高階秀爾氏(※)の講演では、この「日本人の美意識」を氏の専門とされる西洋美術史との対比から、具体的作品を示しつつ、豊富な学識と教養あふれる話で展開された。

「一美しいものは永遠の喜び」(キーツ)ではあるが、美しいものは、人によって場合によって時代によってさまざまである。姿形が整っているだけで「美」が完結されるとはいえず、愛らしい、いとしい、かわいらしいといった性格や心情を伴って初めて「美」を感じることができるのである。「美」とは、事象(客体)と自我(主体)が合致したときに存在が顕わになると、遠い昔、大学の美学の授業で学んだことのある私は、先生がこの講演でどのようなアプローチで「日本人の美意識」を明らかにされるか、ワクワクしながらこの日を待っていた。

東西の美術作品の比較を通じて日本人は何に美を感じどう表現してきたかを浮き彫りにされた先生の講演は、日頃何げなく見過しがちな我々自身の美へのこだわりや感性、又生活習慣までも改めて気づかせ、得心させるに十分なものがあつた。

例えば建築ではギリシャのパルテノン神殿に対し、伊勢神宮の社。石の文化と木の文化。三角屋根に列柱は似ているものの、パルテノンの破風の彫刻装飾の複雑さに対し、伊勢神宮は白木で一切の装飾はない。一この簡素さがいとも清らかで神々しささえ感じさせる。日本人の美意識のひとつの極みともいえる。

作庭も注目だ。ヴェルサイユ宮殿の庭は広くて幾何学的シンメトリーな構成で噴水を配して人工的美しさを強調するに対し、京都の社寺の庭は狭い空間に木、石、池、山を配し自然の風景をミニチュア化する。あるいは枯山水で象徴化して、簡素な中に、静けさや優しさを、そして無常感をも感じさせる。

自然を愛し自然の中に美や安らぎを求めるのが日本人の特性だ。生活の中でも四季毎に屏風や掛軸を取り替え、美術展でも2月に「紅白梅図屏風」を、5月に「かきつばた図屏風」を展示して、我々日本人の美意識を喚起してくれるが、こうし

た取り扱いをする習慣は西洋では見当たらない。

二次元の絵画を立体的に見せる方法として西洋は透視遠近図法を生み出した。視点は一つで科学的。これに対し日本画では上から横から自由に視点を動かし情緒的である。紅白梅図屏風の中央の水は上から見た様子、左右の梅の木は横から見たもの、画面は平面的で装飾的美を生み出す。洛中洛外図屏風も、上から横から下から視点を縦横に動かして、京都の街の情景を生き生きと伝える。余計なものは雲で隠し、屋根をとり払って室内を見せる源氏物語絵巻など、日本人の感性は科学を超えた美を導くようだ。

このような日本美術と西洋美術の違いはどこから来るのか。先生は講演の中では直接は触れられなかったが、私は農耕民族と狩猟民族の違いから来ること、また宗教観の違いに遠因があると強く感じた。農耕民族は自然の影響を大きく受ける。季節や天候の変化に敏感になり祈りをこめるのは当然だ。宗教に対しても寛容な日本人は神道と仏教を共存させ多神教である。美術は宗教と結びつき、宗教は図像を通して普及を図ってきたのは、洋の東西を問わない。いずれも造形に祈りをこめ信仰の対象としてきた。人間賛歌の西洋に対して自然賛歌の日本。美術は人類の文明文化の総合体である。我々日本人がどういう美意識の中で文化を育み、愛や喜びを得てきたか—高階先生の講演はそれを気づかせ、心豊かな至福のときを与えてくださった。このような素晴らしい講師を招かれた東京支部役員・委員の皆さんのご尽力にも感謝したい。

※高階秀爾(たかしなしゅうじ)氏:

大原美術館館長 西洋美術振興財団理事長 東京大学名誉教授



講演後は活発な質疑で盛り上がりました。上の写真は庄司ヨシ会員。

2017年度 東京支部 正味財産増減計算書 (2017年4月1日～2018年3月31日)

(単位:円)

科 目	実施事業等会計				小計	その他会計			支部計	備 考
	事業1 セミナー 調査研究	事業2 奨学金・奨励金	事業3 国際奨学・支援	事業4 国際ネットワーク		事業5 広報・情報	事業6 会員活動	小計		
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1)経常収益										
本部会計からの繰入金収入(交付金)						100,000	107,000	207,000	207,000	
支部活動費						160,000	250,000	410,000	410,000	205口
事業収益										
シンポジウム・講演会・講座事業収益										
支部総会事業収益										
その他の行事参加費							317,500	317,500	317,500	懇親会他参加費
受託事業										
補助金収益										
受取寄付金							37,900	37,900	37,900	サークル他
受取利息		21			21		14	14	35	
その他収益						7,600		7,600	7,600	
経常収益計(A)		21			21	267,600	712,414	980,014	980,035	
(2)経常費用										
事業費										
会議費		1,955			1,955		350,560	350,560	325,515	懇親会他
会場費							56,000	56,000	56,000	
旅費交通費							125,000	125,000	125,000	講師お車代を含む
通信運搬費		6,528			6,528	33,716	44,296	78,012	84,540	
消耗品費①(②以外の消耗品支出)		70			70	810	32,745	33,555	33,625	
印刷製本費						172,800	8,622	181,422	181,422	「ともしび」62、63号
諸謝金										
研修費										
支払負担金										
支払助成金										
支払寄付金										
支払奨学金		200,000	80,000		280,000				280,000	
諸会費										
図書・資料費							9,515	9,515	9,515	DVD「ユキエ」「レオニー」
雑費			130		130	432	8,948	9,380	9,515	
負担金										
給料手当		60,000	60,000		120,000	40,000	40,000	80,000	200,000	
光熱水料費		5,000	5,000		10,000	5,000	5,000	10,000	20,000	
消耗品費②		10,000	10,000		20,000	5,000	5,000	10,000	30,000	
経常費用計(B)		283,553	155,130		438,683	257,758	685,686	943,444	1,382,127	
当期経常増減額(A-B)		△ 283,532	△ 155,130		△ 438,662	9,842	26,728	36,570	△ 402,092	
2. 経常外増減の部										
当期一般正味財産増減額(C)=(A-B)					△ 438,662			36,570	△ 402,092	
一般正味財産期首残高(D)					2,418,679			1,891,456	4,310,135	
一般正味財産期末残高(C+D)					1,980,017			1,928,026	3,908,043	
II 正味財産期末残高					1,980,017			1,928,026	3,908,043	

資金残高(2018年3月31日現在)

実施事業等会計

その他会計

現金	銀行名	金額
0	三菱東京UFJ銀行	1,980,017
106,339	三菱東京UFJ銀行	1,821,687

会計
河井尚子
木村和子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており
間違いのないことを証明いたします。

2018年3月26日

会計監査 佐々木澄子 印
会計監査 今村 麻子 印

2018年度 東京支部 予算書(正味財産増減計算書ベース) (2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位:円)

科 目	実施事業等会計				小計	その他会計			支部計	備 考
	事業1 セミナー 調査研究	事業2 奨学金・奨励金	事業3 国際奨学・支援	事業4 国際ネットワーク		事業5 広報・情報	事業6 会員活動	小計		
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1)経常収益										
本部会計からの繰入金収入(交付金)						80,000	140,000	220,000	220,000	
支部活動費						200,000	220,000	420,000	420,000	210口
事業収入										
シンポジウム・講演会・講座事業収益							50,000	50,000	50,000	
支部総会事業収益										
その他の行事参加費							250,000	250,000	250,000	懇親会、見学会他
受託事業										
補助金収益										
受取寄付金							30,000	30,000	30,000	
受取利息		100			100		100	100	200	
その他収益						3,000	5,000	8,000	8,000	
経常収益計(A)		100			100	283,000	695,100	978,100	978,200	
(2)経常費用										
事業費										
会議費							280,000	280,000	280,000	総会懇親会費他
会場費							50,000	50,000	50,000	
旅費交通費		5,000			5,000		120,000	120,000	125,000	講師お車代含む
通信運搬費		5,000	2,000		7,000	5,000	50,000	55,000	62,000	
消耗品費①		2,000			2,000	5,000	20,000	25,000	27,000	
印刷製本費						200,000		200,000	200,000	「ともしび」2回発行
諸謝金										
研修費										
支払負担金										
支払助成金										
支払寄付金										
支払奨学金		200,000	80,000		280,000				280,000	
諸会費										
図書・資料費							20,000	20,000	20,000	
雑費		1,000	1,000		2,000	2,000	3,000	5,000	7,000	
負担金										
給料手当		50,000	50,000		100,000	50,000	50,000	100,000	200,000	
光熱水料費		5,000	5,000		10,000	5,000	5,000	10,000	20,000	
消耗品費②		5,000	5,000		10,000	10,000	10,000	20,000	30,000	
経常費用計(B)		273,000	143,000		416,000	277,000	608,000	885,000	1,301,000	
当期経常増減額(A-B)		△ 272,900	△ 143,000		△ 415,900	6,000	87,100	93,100	△ 322,800	
2. 経常外増減の部										
当期一般正味財産増減額(C)=(A-B)					△ 415,900			93,100	△ 322,800	
一般正味財産期首残高(D)					1,980,017			1,928,026	3,908,043	
一般正味財産期末残高(C+D)					1,564,117			2,021,126	3,585,243	
II 正味財産期末残高					1,564,117			2,021,126	3,585,243	

第七回定時会員総会報告

前支部長 中山 正子

◎開催 5月13日(日)

静岡(中島屋グランドホテル)

全国から107名の会員が出席して、静岡で第7回定時会員総会が開催されました。鷺見八重子会長のあいさつに続き、8名の逝去会員(東京支部では山本和代様、関口瑞穂様)のご冥福を祈り黙祷を捧げました。鷺見会長が議長に選出されて早速議事に入り、第1号議案、2017年度貸借対照表および正味財産増減計算書の説明と監査報告があり、異議なく承認可決。続いて第2号、第3号議案は現在の理事及び監事の任期満了により新たに理事14名、監事2名が選任可決されました。報告事項に移り、担当理事による2017年度事業報告、監事から公益目的支出実施報告書に関する監査報告、2018年度事業計画及び予算の報告で議事は全て終了。その後、10月開催予定の公開シンポジウムについての説明と、70周年記念募金は3月31日現在約520万円、1000万円を目標に来年3月まで引き続き協力と呼びかけられました。次期総会開催地は京都に決定しました。

午後の全国総会、前半は歴史時代小説家の植松三十里氏による公開講演会が開かれました。

著書『辛夷開花』(こぶしのか)から「世界に羽ばたいた栄光と挫折」と題して初代文部大臣森有礼の妻、「おつねさん」の波乱に満ちた半生を熱く語られ、当時の女性の強さに感銘を受けました。後半は従来の委員長・支部長報告に代えて、委員会別に6の分科会に分かれて活発な意見交換が行われました。

12日午後、21支部の支部長と理事、監事が出席して支部長会が開催されました。総会に先立ち、主に財務諸表について詳しい説明と質疑応答の後、事業・委員会の再編により本部と支部の好ましい協働の在り方について様々な意見が出ました。会員数の減少に伴う支部活動の難しさなど、共に抱える悩みを話し合い、いかに活性化していくかは今後の課題になりました。

夜の懇親会では、山下いづみ静岡支部長の若さ溢れるあいさつに続いて、静岡支部会員、上川陽子法務大臣から祝辞をいただきました。新鮮な食材のお料理は美味しく、余興は一輪車で登場の国際的クラウンパフォーマー、わっしょいゆーたさんの素晴らしい大道芸に会場は拍手喝采、和やかな楽しい一夜でした。14日は晴天に恵まれ、「世界遺産の街富士・富士宮を訪ねる旅」を満喫。心を込めてご準備くださった静岡支部の皆さまには心より感謝申し上げます。

会員寄稿

SPECIALIST COLUMN

糖尿病のはなし

— 前編 —

藤川 眞理子

国際健康問題としての糖尿病

世界中で成人11人に1人が糖尿病に罹患し2017年の糖尿病人口は4億2500万人、2040年には6億4200万人に増加すると予測されています。糖尿病が最も多い国は中国。日本は40歳以上の糖尿病患者が6番目に多い国です。糖尿病は国連で定めたSDGs(持続可能な目標)Goal3健康において、予防と管理に取り組むべきNCD(非感染性疾患)です。国連はHIV/AIDSのレッドリボンに続く糖尿病のシンボルマークとして「insulin Diabetes」を意味する輪で色は国連旗のブルーのブルーサークルを制定しました。(地下鉄東西線もブルーサークル!?)またインスリン発見者の誕生日11月14日を世界糖尿病デーと定め、日本の発案で東京タワーを始め世界中で建造物がブルーにライトアップされます。

血糖値とインスリン

車のエネルギーはガソリンや電気ですが、人間のエネルギーの基本は食事から摂った炭水化物が消化、分解されたブドウ糖です。血液の中のブドウ糖を「血糖」と呼び、血糖100ml(1dl)中のブドウ糖の量(濃度)を「血糖値」といいます。食後10時間絶食(水はOK)した時の空腹時血糖値が126mg/dl以上は糖尿病型、100~109mg/dlは正常高値、110~125mg/dlは境界型。食事に関係なく血糖値が200mg/dlを超えていれば糖尿病型。過去1~2カ月の血糖値の平均を示す指標がHbA1c(グリコヘモグロビン)ヘモグロビンエーワンシーと呼ばれる検査で、6.5%以上の場合には糖尿病型。血糖値とHbA1cの両方が糖尿病型であると、「型」が取れて糖尿病と診断されます。食事により血糖値が高くなると膵臓から「インスリン」という唯一血糖値を下げる働きのあるホルモンが分泌されます。

糖尿病はどんな病気?

糖尿病は、インスリンの効きが悪い(抵抗性)あるいは分泌低下により、慢性的に高血糖が持続し、放置したままにすると様々な合併症が必発

してくる病気です。合併症が進行するまでは無症状で経過するサイレントキラー(沈黙の殺し屋)なので、早期発見するには健診を受け血糖値やHbA1cをチェックするか方法はあります。

糖尿病の種類

日本人の糖尿病の95%は2型糖尿病です。他に自己免疫疾患でインスリン注射による治療が必須の1型糖尿病、別の病気や薬剤による2次性の糖尿病、妊娠糖尿病があります。ふつう糖尿病というと2型糖尿病を意味しています。

糖尿病と日本人

日本人を含む東アジア人は欧米人と比べるとインスリンの分泌能が半分しかありません。日本人は遺伝的に糖尿病になりやすいのです。スリムな「隠れ糖尿病」に要注意です。内臓脂肪が多い「隠れメタボ」やもともと脂肪が存在しないはずの筋肉、肝臓、膵臓に脂肪がたまる「異所性脂肪」により糖尿病の発症リスクが高くなることがわかってきました。

(次号に続く)

●ふじかわまりこ(東京支部会員) 日本糖尿病学会専門医・研修指導医。千葉県市原保健所所長

2016年度東京支部チャレンジ奨学生レポート

上智大学総合人間科学部看護学科卒業
医療法人財団順和会 山王メディカルセンター 看護部 看護師(外来勤務)

釜堀 裕子

私は平成元年に慶應義塾大学法学部法律学科を卒業し、日本IBM(株)に25年勤務の後、看護師を目指すべく方向転換をしました。パソコンも一般に普及していなかった頃から「ITは人々の生活を良くする無限の可能性を持つツール」と考え、SE等の活動を通して企業が抱える課題を解決し、より便利で快適な社会の実現を目指してきた事、ビジネスやライフスタイルの変革を提案し続ける企業で働いてきた事は今も私の誇りです。

しかし40歳代半ば過ぎて医療の世界に飛び込んだ理由は、家族の病氣や東日本大震災というきっかけの他、「直接的に人の役に立った」という実感を持って人生を全うしたい」というジレンマの為です。そこで、キリスト教の精神による「他者のために、他者とともに」というヒューマニズムがキャンパス内に溢れる上智大学の看護学科に社会人入学しました。

再度得た学びの時間をより充実させたく、入学後は医療を取り巻く様々な知識や経験を積むことに努めました。マザーテラサの施設でのボランティア(インド)や保健医療政策立案フィールドワーク(フィリピン・離島地域)への参加、市民成年後見人養成講座(厚労省)の受講や、音楽療法の履修(東京音楽大学)、アロマセラピスト資

格取得等です。親子程も年の違う若い学生達との日々は非常に刺激的で楽しい一方、身体的・頭脳面だけでなく心理的に辛い時も少なくない中、チャレンジ奨学生に採用された事は大きな励みでした。心から感謝しています。努力の甲斐あり、2年次に学業優秀賞、卒業時は学科副代表に選ばれました。

私は人の疾病予防行動プロセスに非常に興味があり、卒業研究は「成人における趣味活動は予防的保健行動の促進因子となりうるか」のテーマで、あるアマチュア合唱団団員約100名の疾病予防の意識と行動を調査・分析しました。

3月に看護師と保健師の国試に合格し、4月から外来看護師として勤務しています。潰瘍性大腸炎等難病で長年通院する方、併設の人間ドックで精密検査となった方等、様々な年齢層・疾患で受診される患者さんと接し、日常生活の中での病氣との付き合い方、健康への渴望、生活習慣を変えることの難しさ等も学ぶ毎日です。今後は、臨床経験を積んだ後、大学院で公衆衛生を学び、地域住民や働く世代の疾病予防や職場復帰を支援する仕事に従事したいと考えています。様々な生活の価値観を尊重する医療者を目指したく、今後も皆様のご助言をお願い致します。

昭和二十年八月十五日

シリーズ
あの頃わたしは
少女たちの
戦争証言

戦後の日々 その1

児林 英子

「日本は戦争に負けた」と聞かされても、疎開児童の私達の生活には何の変化もなく、虚脱状態のまま無為に、昭和20年の8月を過ごしていました。

その頃、一人の男の人が私の両親に頼まれて、広島県庄原市の疎開先まで私の様子を尋ねて来ました。当時電話があるわけでもなく、こうして本人に会うことが、最高の情報入手手段だったのです。夕方その人が「帰る」ことになり、友達二人と一緒に駅まで見送りに行きました。するとその人が突然「帰りたい?」と聞くので、「帰りたい」と答えると、「それじゃ

先生に相談してみよう。もう戦争は済んだんじゃないけん、子供を此処に置いてくこたあないもん」と言う返事。即刻宿泊先のお寺へひき返しました。予想外に早く許可が出て、誰だったか記憶はありませんが、私達三人の女の子は、それぞれが風呂敷包み一つを持って、急遽広島市の中心地から東に離れた向洋で、母方の祖父母と同居しており、直接原爆の被害を受けることなく、家そのまま残っていました。しかし、父は原爆が投下され

た日、街中を^{まちなか}通って向洋へ帰宅し、母は翌日広島市の西側に住んでいた父の両親を歩いて見舞いに行っています。二人共二次放射能を浴びており「被爆者手帳」を持っていました。父によく「ピカの日、どうやって帰って来たん?」と聞きました。「地獄よ!」が返事でした。

復学したものの授業は無く、二十才にも満たない代用教員の先生に日溜りで編物など教えてもらいながら、先生の戦争体験を聞きました。―先生の話―向洋の小学校へ原爆で死んだ人がどんどん運ばれて来るんよ。校庭に穴を掘って火をつけて焼くん。夜になると又空襲警報が出て、焼きかけた死体に水をかけて火を消すと…恐ろしかった」

次に私たちがさせられたことは、それまで使っていた教科書で、軍国主義に資する内容・神話・民主主義にそぐわない箇所を、墨で真黒に塗り潰すことでした。

(次号に続く)



疎開先 庄原市西楽寺

勉強会報告

原発ゼロ・自然エネルギー推進

講師 吉原毅氏



勉強会は5月18日(金)千駄ヶ谷の津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス会議室にて開催された。講師は加藤恭子会員の「ご夫君の遺志も継がれた城南信用金庫顧問 原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟会長 吉原毅氏。最初に40分間の欧州の原発と自然エネルギーの現状と問題点、自然エネルギーによる解決策等ユーモアを交えながら、時間が足りず残念！まだまだお話ししたいですが…の中終了した。

ヨーロッパでは風力、太陽光、地熱などの自然エネルギー発電が進み、地域ごとに官民が協力して過疎の町を復興し、いま大きな利益を得る成功例も報告されている。福島原発事故以後原発廃止に大きく舵を切ったドイツも原発なしでいけると確信している。ドイツはフランスから原発エネルギーを買っていると日本人は誤解している。フランスから他の国に送る電力に送電線を貸しているだけでドイツはフランスヘトータルとして電力を供給している。もともと原発拒否であったデンマークでは現在、世界の風力発電タービンの3割を生産している。普及するにつれ生産コストも飛躍的に安くなり世界的に2015年には風力発電の、2017年には太陽光発電の設備容量が原発を超えた。今ほとんど原発が稼動していなくても日本も電力量は足りている。



日本が世界3位42基もの原発を持ち脱原発に大きく遅れをとっているのはなぜか？それは原子力ムラ(産官、学、総合利権集団)の存在のためと考える。福島原発事故後なぜ正しい状況が迅速に報道されなかったのか？事故後東電の社宅からはバスで全員が避難したそう。メルトダウンが分かってきたからだろう。一般人はそれをなぜかなと見ていた。原発は子々孫々まで非常に危険で、生産も維持もコストが高い。危険な廃棄物は10万年も安全に保管しなければならぬ。



講師紹介をする
加藤恭子会員

ばならない。危険な廃棄物が増え続けることを「トイレのないマンション」と警鐘を鳴らす人がいてもなぜか「安くて安全」神話に打ち消されてきた。日本は火山列島で、活断層のないところでも大きな地震は起きている。

ソーラーシェアリングは太陽の光を「発電」と「農業」でシェアする取り組みだ。従来の地面に置くタイプの太陽光発電では地面をそのためだけに利用していた。植物は光が当たると光合成の速度が一定(植物光飽和点)に達することから耕地にパネルを設置し必要な光を作物に、余分な光をパネルに受け農作物と発電の両方を得ることができる。もう全国に1千箇所以上のソーラーシェアリングが稼動しTPPに伍している。いける農家を育てている。

吉原氏は脱原発のためどこへでも無料で講演にと、今日も次の講演地に向かわれた。質疑応答では啓蒙が大切なこと、理系に進む若い人が減るのではという危惧、二酸化炭素による温暖化か、地球の周期による温度変化かなど閉会後も意見交換があった。

(支部委員 嶋田美恵子)

Qの会からの報告

「候補者男女均等法」の成立まで

副会長 牧島悠美子

2018年5月16日、念願の「政治分野における男女共同参画推進法」(候補者男女均等法)が、超党派の議員立法として参議院本会議にて全会一致で可決成立した。女性参政権が行使されてから72年、クォータ制を推進する会(Qの会)発足後6年、超党派の議員連盟結成後3年のことである。

2010年12月に閣議決定した第3次男女共同参画計画に積極的改善措置(ポジティブアクション)として「クォータ制」(割当制)を明記、WINWIN赤松良子代表がこれを機に2011年秋、全国組織の女性団体に呼び掛け、JAUWを含む8団体を幹事団体としてQの会は発足した。JAUWからは当時の青木怜子会長が代表として参加、その後牧島が引き継いでいる。

2013年5月から2018年4月までに15回の院内集会、2015年から毎夏ヌエックでワークショップを開催し、東京支部会員の三浦まり上智大学教授には大山礼子駒澤大学教授と共に会の顧問として指導・協力いただいている。

講演会

「黄春明が描いた台湾社会と女性たちの研究」
～皆様のご支援をいただいて～（社会福祉委員会・東京支部共催）

9月18日(火)

13:30～15:30

講師：木下佳奈さん

2017年度ホームズ・社会福祉奨学生

東京外国語大学大学院博士後期課程言語文化専攻2年生

会場：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス会議室

フラワーアレンジメント講習会

お正月にも応用できるクリスマスの花

11月下旬

講師：河井尚子会員

※日程、会場が決まりましたら、お知らせします。

東京支部チャレンジ奨学生 2018年度募集要項

一般社団法人大学女性協会東京支部は、企業、官公庁などでの就労経験の後、現在大学で勉学中の意欲ある女性に、その勉学を支援することを目的として奨学金を支給する。卒業後は再び就業し、自らのステップアップのみならず広く社会に貢献することを条件とする。

I 応募資格

2年以上の就労(アルバイトを除く)の後、文部科学省の認可する東京都・沖縄県・埼玉県・千葉県・山梨県に本部を置く大学の3年次に在籍する女子学生。卒業時まで同大学に在籍することを条件とする。就労以前の学歴は問わない。経済的理由は問わない。

II 支給額および募集人数

奨学金20万円を1名に1回支給する。返還は求めない。

III 応募提出書類

(1) 履歴書・自己紹介書

1. 所定の様式による 2. 写真貼付
3. 履修科目は主な専門科目1科目であること
4. 履修科目の指導教員の職名・署名・印を必要とする

(2) 作文

所定の様式によりA4用紙1枚に1000字以内
テーマ 「どのような就労経験を経て、現在の勉学を必要と考えたか。
その勉学を今後どう生かしたいかについて」

(3) 大学の在籍証明書

備考(1)(2)は、7月中旬に掲載するホームページ(東京支部欄)からダウンロードして使用のこと。

IV 応募方法および締切り

応募者は応募書類を在籍大学へ提出する。大学は一括して2018年10月25日(木)(必着)までに大学女性協会東京支部に提出する。

V 選考結果通知:本人および大学学長に11月末までに通知する。

VI 支給:1月予定。別途連絡する。

VII 奨学生の義務

卒業後2カ月以内に「勉学の概要と現況」を大学女性協会東京支部に提出すること。提出のない場合は、奨学金の返還を求められることがある。「勉学の概要と現況」は、支部会報「ともしび」に掲載する。同封会報「ともしび」参照のこと。

<問合せ先> 東京支部長 森川淳子

E-Mail:jauw@jauw.org URL:http://jauw.org

『ともしび第65号』投稿募集

テーマ

私の辞書に『今更』はない!

「わたし、初めてピアノの演奏会に出るの」

「麻雀の点数が数えられるようになったわ」

「大学院に入りました。今? 70歳」

「60歳超えて始めた山登り。ヒマラヤトレッキングで5千メートルを踏破したぞ」

「源氏って、原文で読めるのね」

「今時の古代史に、目がパッチリ」

「孫の中学の教科書で、数学やっています」

「ついに海外旅行、百回突破!」

JAUWの会員は、みんな好奇心旺盛、「今更」と躊躇するのは似合いません。あなたが最近始めたこと、再開したこと、今もやり続けていることを、皆さんに披露してください。同好の士やライバルが見つかるかも?

テーマ : 表題の通り(具体的に)

記載事項 : 氏名 年代

字数 : 1稿 800字まで 一人1稿

締め切り : 2018年12月末日

投稿方法 : メール添付または郵送

送り先 : JAUW東京支部

全投稿を掲載します。多少の用字の変更はご一任ください。

サークル案内

●源氏物語を読む会(II)

第二・第四火曜日

午前10時半～12時

津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス会議室

講師・坂上栄美子会員

連絡先・中山律子

☎03-33336146 28

「初音」を再読しています。

●源氏物語を読む会(III)

第一・第二水曜日

午前10時半～12時

津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス会議室

講師・坂上栄美子会員

連絡先・河井尚子

☎03-37201029 3

「少女」を読んでいます。

●水墨画教室

第二木曜日

午後一時半～三時半

JAUW事務所会議室

講師・日高絹子(絹紅)会員

連絡先・森川淳子

☎(045)5831343 30

2018年度 東京支部委員会

支部長 森川淳子

副支部長 桑折美子

書記 桑折美子 竹井香州子

会計 菊池摩耶子 早川恵子

委員 太田恵子 河井尚子

木村和子 坂上栄美子

嶋田美恵子 進士多佳子

中山正子 野瀬久美子

藤村久美子 松岡幸子

佐々木澄子 鈴川佳子

*50音順

2018年度 東京支部新入会員

板垣 絵里 (津田塾大学)

中野 眞佐子 (実践女子大学・コラド州立大学)

長谷川 瑞穂 (東京女子大学・東京外国語大学大学院)

柳澤 実穂 (お茶の水女子大学大学院)

*敬称略 *50音順 括弧内は出身校

●今年度は《東京支部国際奨学生》の募集はありません。引き続きフィリピン・のレンリン・パンドン・サプルさん(4年)、ミャンマーのナウ・サルガイ・ムーさん(3年)を支援しています。

支部からの連絡

●住所等の変更はお知らせください。

●会費未納の方は早目にお願います。

●91歳以上の会員の会費は免除することがあります。支部長までお申し出ください。

●中野区視覚障害者福祉協会支援のため使用済み切手を事務所までお送りください。

《編集後記》

前期委員の協力を得ながらではありますが、新メンバーで取り組んだ「ともしび64号」。これまでのコンテンツを生かし、さらにいろいろな企画を織り込んで、会員ならはの知恵の継承の一端を担えればと思います。みなさまのアイデアもお待ちしております。

(編集担当 桑折進士&嶋田)

ともしび 第64号 発行日:2018年7月23日

編集/発行:一般社団法人大学女性協会東京支部 〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101

Tel:03-3358-2882 Fax:03-3358-2889 Email:jauw@jauw.org URL:http://www.jauw.org

制作協力/印刷:株式会社 繁松

※「ともしび」は会員のための情報誌です。外部に向けた転載、引用などは事務所までご一報ください。